

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名	千葉大学		採択年度	令和元年度	整理番号	1903
1	プログラム名称	革新医療創生CHIBA卓越大学院				
	英語名称	Innovative Medicine CHIBA Doctoral WISE Program				
	ホームページ (URL)	https://www.m.chiba-u.jp/dept/imec/				
2	全体責任者 (学長)	ふりがな よこて こうたろう 氏名 (職名) 横手 幸太郎 (千葉大学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるものは基幹大学) の学長名に下線を引いてください。			
3	プログラム責任者	ふりがな なかや はるあき 氏名 (職名) 中谷 晴昭 (千葉大学・理事・副学長)				
4	プログラムコーディネーター	ふりがな さいとう てついちろう 氏名 (職名) 斎藤 哲一郎 (千葉大学・理事・副学長・医学研究院教授)				
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域			
		関連する領域 (1)【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域			
		関連する領域 (2)【任意】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野			
		関連する領域 (3)【任意】	なし			
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	H			
		最も関連の深い区分 (中区分)	49	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野		
		最も関連の深い区分 (小区分)	49070	免疫学関連		
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	H			
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	47	薬学およびその関連分野		
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	47050	環境および天然医薬資源学関連		
7	授与する博士学位分野・名称	医学、薬学分野・博士 (医) または博士 (薬学)				
8	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	千葉大学大学院医学薬学府 先端医学薬学専攻・医科学専攻・総合薬品科学専攻、大学院看護学研究科 看護学専攻、大学院融合理工学府 数学情報科学専攻・地球環境科学専攻・先進理化学専攻・創成工学専攻・基幹工学専攻、大学院園芸学研究科 環境園芸学専攻				
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入	連合大学院	共同教育課程	10 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。		
				15		
11	連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
カリフォルニア大学サンディエゴ校、南カリフォルニア大学、シャリテ医科大学、トロント大学、国立研究開発法人 理化学研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構、武田薬品工業株式会社、日本マイクロソフト株式会社、シスメックス株式会社、日本イーライリリー株式会社、オリンパス株式会社、DNAチップ研究所、合同会社H.U.グループ中央研究所、ジーンフロンティア株式会社						

【公表】

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	17フォート(割合)
1	(プログラム責任者) 中谷 晴昭	ナカヤ ハルキ		千葉大学・理事・副学長	博士(医学)	薬理学	プログラムの実施・統括	1
2	(プログラムコーディネーター) 斎藤 哲一郎	サイトリ テツイチロウ		千葉大学・理事・副学長・大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	博士(理学)	神経科学	プログラムの企画・運営担当、コーディネーター、革新治療学クラスター長、神経科学担当	2
3	本橋 新一郎	モトハシ シンイチロウ		千葉大学大学院医学研究院・副研究院長・先端がん治療学研究講座・教授	博士(医学)	腫瘍免疫学、呼吸器外科学	プログラムの企画・運営担当、サブコーディネーター、カリキュラム委員長、トロント大学連携教育主任、革新治療学クラスター、免疫細胞医学担当	1.5
4	清野 宏	キヨノ ヒロシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・未来医療教育研究機構・卓越教授 Professor, Department of Medicine, University of California, San Diego	D. D. S., Ph. D.	Mucosal Immunology	UC San Diego 教育統括、革新治療学クラスター	1.5
5	森部 久二一	モリベ ケニチ		千葉大学・副学長・大学院薬学研究院・副研究院長・創薬科学講座・教授	博士(薬学)	薬剤学・製剤学	革新医療創薬学クラスター長、製剤工学担当	1
6	川上 英良	カガミ エリヨウ		千葉大学大学院医学研究院・インノベーション治療学研究講座・教授 理化学研究所・先端データサイエンスプロジェクト・医療データ数理理論チーム・チームリーダー	博士(医学)	予測・個別化医療、システム医学	革新医療Society5.0クラスター長、自己点検副委員長、人工知能医学担当	1
7	羽石 秀昭	ハネシ ヒデアキ		千葉大学・副学長・フロンティア医工学センター・教授	博士(工学)	医用画像工学	革新医療工学クラスター長、医工画像解析担当	1
8	中島 裕史	ナカジマ ヒロシ		千葉大学・副学長・大学院医学研究院・副研究院長・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	アレルギー学、臨床免疫学、内科学	国際連携委員長、UC San Diego 連携教育主任、革新治療学クラスター、臨床免疫学担当	2
9	木村 元子	キムラ モトコ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	免疫学	学生支援委員長、UC San Diego 連携教育主任、革新治療学クラスター、実験免疫学担当	1.5
10	三木 隆司	ミキ タカシ		千葉大学大学院医学研究院・医学研究院長・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	糖尿病学	革新治療学クラスター、代謝生理学担当	1
11	平原 潔	ヒラハラ キヨシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	免疫学、呼吸器内科学	学生選抜委員長、革新治療学クラスター、免疫発生学担当	1.5
12	金田 篤志	カナダ アツシ		千葉大学大学院医学研究院・副研究院長・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	がんエビゲノム	自己点検委員長、USC連携教育主任、革新治療学クラスター、分子腫瘍学担当	1.5
13	川島 博人	カワシマ ヒロト		千葉大学大学院薬学研究院・ゲノム創薬学講座・教授	博士(薬学)	免疫学、生化学	学生支援副委員長、革新医療創薬学クラスター、糖鎖免疫学担当	1
14	武居 昌宏	タケイ マサヒロ		千葉大学大学院工学研究院・基幹工学専攻・教授	博士(工学)	流体工学	革新治療学クラスター、生物流体工学担当	1
15	松宮 護郎	マツミヤ コロウ		千葉大学大学院医学研究院・呼吸・循環治療学研究講座・教授	博士(医学)	心臓血管外科学	革新治療学クラスター、心臓血管外科学担当	1
16	眞鍋 一郎	マナベ イチロウ		千葉大学・医学薬学府長・大学院医学研究院・副研究院長・インノベーション治療学研究講座・教授	博士(医学)	疾患生物学、循環器内科学	カリキュラム副委員長、革新治療学クラスター、長寿医学担当	1
17	鈴木 拓児	スズキ タクジ		千葉大学大学院医学研究院・呼吸・循環治療学研究講座・教授	博士(医学)	呼吸器内科学	革新医療サステイナブル健康科学クラスター長、呼吸器内科学担当	1
18	浅沼 克彦	アサヌマ カツヒコ		千葉大学大学院医学研究院・副研究院長・消化器治療学研究講座・教授	博士(医学)	腎臓内科学	革新治療学クラスター、腎臓内科学担当	1
19	辻 比呂志	ツジ ヒロシ		国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構・QST病院・客員研究員	博士(医学)	放射線腫瘍学	放医研連携教育主任、革新治療学クラスター	1
20	伊藤 素行	イトウ モトキ		千葉大学・学長特別補佐・大学院薬学研究院・副研究院長・ゲノム創薬学講座・教授	博士(医学)	分子細胞生物学	産学連携・キャリアパス委員長、革新医療創薬学クラスター、生物発生創薬担当	1.5
21	伊藤 晃成	イトウ コウセイ		千葉大学大学院薬学研究院・分子薬物治療学講座・教授	博士(薬学)	毒性学、薬物動態学	学生選抜副委員長、革新医療創薬学クラスター、薬物動態学担当	1
22	田中 知明	タナカ トモアキ		千葉大学・災害治療学研究所長・大学院医学研究院・副研究院長・生命機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	内分泌学・腫瘍生物学	革新医療生物科学クラスター、内分泌学担当	0.5
23	石井 伊都子	イシイ イコ		千葉大学医学部附属病院・薬剤部長・大学院薬学研究院・医療薬学研究室・教授	博士(薬学)	医学薬学	革新医療サステイナブル健康科学、医療薬学担当	1
24	花澤 豊行	ハナザワ トヨユキ		千葉大学大学院医学研究院・先端がん治療学研究講座・教授	博士(医学)	耳鼻咽喉科・当頸部腫瘍学	革新医療工学クラスター・耳鼻咽喉科学担当	1
25	猪爪 隆史	イヅメ タカシ		千葉大学大学院医学研究院・生命機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	皮膚科学	革新医療工学クラスター、皮膚科学担当	1
26	根本 哲宏	ネモト テツヒロ		千葉大学大学院薬学研究院・創薬科学講座・教授	博士(薬学)	有機合成化学	革新医療創薬学クラスター、有機合成化学担当	1

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	17フォート(割合)	
27	中村 浩之	ナカムラ ヒロユキ	千葉大学大学院薬学研究院・分子薬物治療学講座・教授	博士(薬学)	薬理学	革新医療創薬学クラスター、薬理学担当	1	
28	笹川 千尋	ササガキ チヒロ	千葉大学 真菌医学研究センター長	博士(医学)	微生物学、免疫学	革新医療創薬学クラスター、病原微生物学担当	5	
29	石川 文彦	イシカワ フミヒコ	国立研究開発法人 理化学研究所・生命医科学研究センター・ヒト疾患モデル研究チームリーダー（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	血液学	理研連携教育担当、革新医療創薬学クラスター	1	
30	劉 浩	リュウ ヒロシ	千葉大学大学院工学研究院・基幹工学専攻・教授	博士(工学)	バイオメカニクス	革新治療学クラスター、生物工学担当	1	
31	兪 文偉	ユ ブンイ	千葉大学フロンティア医工学センター・センター長・教授	博士(工学・医学)	生体計測・モデリング、医用ロボティクス	革新医療工学クラスター、医工学担当	1	
32	池原 譲	イケハラ ユズル	千葉大学大学院医学研究院・副研究院長・先端がん治療学研究講座・教授	博士(医学)	腫瘍病理学	産学連携・キャリアパス副委員長、革新医療工学クラスター、プラズマ治療学担当	1	
33	大鳥 精司	オトリ セイジ	千葉大学・副学長・医学部附属病院長・大学院医学研究院・脳・神経治療学研究講座・教授	博士(医学)	整形外科、脊椎外科	産学連携・キャリアパス副委員長、革新医療工学クラスター、整形外科担当	2	
34	山田 滋	ヤマタ シゲル	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構・QST病院・診療アドバイザー（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	放射線腫瘍学	量子研連携教育担当、革新医療工学クラスター	2	
35	岡崎 俊也	オカザキ トシヤ	国立研究開発法人 産業技術総合研究所・ナノカーボンデバイス研究センター・首席研究員（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	ナノ炭素科学	産総研連携教育担当、革新医療工学クラスター	0.5	
36	田中 洋光	タナカ ヒロミツ	千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・特任講師	博士(理学)	神経科学	革新治療学クラスター、神経科学担当、学生選抜委員	10	
37	村田 武士	ムラタ タケシ	千葉大学大学院理学研究院・機能物質化学講座・教授	博士(工学)	構造生物学	革新医療生物科学クラスター、分子構造解析担当	1	
38	小原 収	オハラ オサム	公財かずさDNA研究所・ゲノム事業推進部・副所長（千葉大学未来医療教育研究機構・特任教授）	博士(理学)	分子生物学	革新医療生物科学クラスター、革新医療分子生物学担当	1	
39	正木 治恵	マサキ ハルエ	千葉大学・副学長	博士(保健学)	老年看護学	革新医療サステナブル健康科学クラスター、高齢者看護教育担当	1	
40	諏訪 さゆり	スヅマ サユリ	千葉大学大学院看護学研究院・地域創生看護学講座・教授	博士(保険学)	高齢者看護学	革新医療サステナブル健康科学クラスター、AI看護担当	1	
41	後藤 英司	ゴトウ エイジ	千葉大学大学院園芸学研究科・環境園芸学専攻・教授	博士(農学)	植物環境工学	革新医療サステナブル健康科学クラスター、革新医療環境学担当	1	
42	米山 光俊	ヨネヤマ ミツトシ	千葉大学真菌医学研究センター・感染免疫分野・教授	博士(理学)	ウイルス学、免疫学	国際連携副委員長、シャリテ医科大学連携教育主任、革新医療創薬学クラスター、ウイルス制御学担当	1.5	
43	石和田 稔彦	イシワタ ナルヒコ	千葉大学真菌医学研究センター・感染症制御分野・教授	博士(医学)	感染症学	革新医療Society 5.0クラスター、感染症学担当	1	
44	後藤 義幸	ゴトウ ヨシユキ	千葉大学真菌医学研究センター・感染免疫分野・准教授	博士(医学)	腸内細菌学	革新医療創薬学クラスター、感染免疫担当	1	
45	倉島 洋介	クラシマ ヨシノブ	千葉大学国際高等研究基幹・准教授	博士(医学)	粘膜免疫学	革新治療学クラスター、粘膜免疫治療担当、広報委員	0.5	
46	長根(齋藤) 裕美	カネ サイフウ ヒロミ	千葉大学大学院社会科学研究院・教授	博士(経済学)	医療経済学、イノベーション研究	革新医療Society 5.0クラスター、医療経済学担当	1	
47	古関 明彦	コセキ アルヒコ	国立研究開発法人 理化学研究所・生命医科学研究センター・副センター長（千葉大学大学院医学研究院・教授）	博士(医学)	免疫学	理研連携教育主任、革新医療Society 5.0クラスター	1	
48	川瀬 貴之	カセ タカユキ	千葉大学大学院社会科学研究院・グローバル関係融合研究センター・教授	博士(法学)	法哲学	革新医療Society 5.0クラスター、生命倫理担当	2	
49	関 信男	セキ ノブオ	シスメックス株式会社・技術戦略本部R&D戦略部・特任研究員（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	免疫学、診断薬開発	革新治療学クラスター/CITICO教育 治療学主任	1	
50	小見 和也	オミ カズヤ	合同会社H.U.グループ中央研究所・社長兼所長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(保健学)	臨床検査・ヘルスケア領域での研究企画・管理、技術経営	革新治療学クラスター/CITICO教育 治療学担当	1	
51	山本 克彦	ヤマモト カツヒコ	武田薬品工業株式会社・ファーマシューティカル・サイエンス アナリティカルデベロップメントジャパン・主任研究員（千葉大学大学院薬学研究院・客員教授）	博士(薬学)	医薬品の品質管理	革新医療創薬クラスター/CITICO教育 創薬物性担当	1	
52	一川 隆史	イチカワ タカシ	タイプライターTX合同会社・Head of R&D Japan（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(薬学)	メディシナルケミストリー	革新医療創薬学クラスター/CITICO教育 創薬学主任	1	

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）							
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	1/ポート(割合)
53	河野 剛志	コウノ タケシ	京都大学大学院医学研究科免疫細胞生物学・特任教授（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	分子生物学、免疫学	革新医療創薬学クラスター 創薬学担当	1
54	片桐 秀晃	カタギリ ヒデアキ	日本イーライリリー(株)・研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部 ニューロサイエンス領域本部・本部長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	精神神経学	革新医療創薬学クラスター／CITICO教育 創薬学担当	1
55	藤沼 賢	フジノ マケン	オリンパス株式会社・イノベーション推進部・課長代理（千葉大学大学院医学研究院・協力研究員）	修士(物理工学)	医療機器の技術開発	革新医療工学クラスター／CITICO教育 医療工学主任	1
56	的場 亮	マツバ リョウ	株式会社DNAチップ研究所・代表取締役社長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	ゲノム生物学	革新医療工学クラスター／CITICO教育 医療工学担当	1.5
57	味戸 慶一	アジト ケイチ	一般財団法人 北里環境科学センター・専務理事・所長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(工学)	薬化学、有機化学、知的財産	革新医療生物科学クラスター／CITICO教育 医療生物科学主任	1
58	海老原 隆	エビハラ タカシ	ジーンフロンティア株式会社・取締役 最高執行責任者（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(工学)	タンパク質工学	革新医療生物科学クラスター／CITICO教育 医療生物科学担当	1
59	小泉 信一	コイズミ シンイチ	Medicinal Creation Advisor 合同会社・代表社員（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	創薬研究、創薬ビジネス	革新医療サステイナブル健康科学クラスター／CITICO教育 医療サステイナブル健康科学主任	1
60	千葉 慎二	チバ シンジ	日本マイクロソフト株式会社・技術統括室・マイクロソフトエンジニア	博士(医学)	ソフトウェア工学	革新医療Society 5.0クラスターIoT連携教育主任	1
61	David Brenner	デーヴ イット ブレナー	Professor, Vice Chancellor for Health Sciences, School of Medicine, University of California, San Diego	M. D.	Gastroenterology	革新治療学クラスター UC San Diego教育担当	1
62	Stephen Hedrick	ステファン ヘドリック	Professor, Department of Biology, University of California, San Diego	Ph. D.	Molecular Biology	革新治療学クラスター UC San Diego教育担当	1
63	Steven F. Ziegler	スティーブ F ザイグラー	Director, External Collaboration, Benaroya Research Institute（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	Ph. D.	Immunobiology	革新医療創薬学クラスター／CITICO教育 Benaroya Research Institute実習主任	1
64	Omid Akbari	オミッド アカバリ	Professor, Department of Molecular Microbiology & Immunology, University of Southern California, Keck School of Medicine（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	Ph. D.	Immunology	革新医療創薬学クラスター／CITICO教育 USC教育統括	1
65	Naoto Hirano	ナオト ヒラノ	Senior Scientist, Princess Margaret Cancer Centre / Professor, Department of Immunology, University of Toronto（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	M. D., Ph. D.	Immunology	革新医療工学クラスター／CITICO教育 トロント大学教育統括	1
66	Mitchell Kronenberg	ミッチェル クロネンバーグ	Professor, President Emeritus, La Jolla Institute for Immunology（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	Ph. D.	Immunology	革新医療生物科学クラスター／CITICO教育 La Jolla Institute for Immunology実習主任	1
67	Peter Bryan Ernst	ピーター ブライアン エルンスト	Professor, Department of Pathology Head, Division of Comparative Pathology and Medicine, University of California, San Diego（千葉大学大学院医学研究院・特命教授）	D. V. M., Ph. D.	Immunobiology	革新医療サステイナブル健康科学クラスター／CITICO教育 UC San Diego教育担当	1
68	Andreas Diefenbach	アンドレアス デイフェンバッハ	Professor and Director/Chair, Charité – University Medical Centre Berlin（千葉大学真菌医学研究センター・客員教授）	M. D.	Immunology	革新医療サステイナブル健康科学クラスター／CITICO教育 シャリテ医科大学教育統括	1
69	Alfred Singer	アルフレッド シンガー	Chief, Experimental Immunology Branch, National Cancer Institute（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	M. D.	Immunology	革新医療Society 5.0クラスター／CITICO教育 NIH実習主任	1

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

①特筆すべき成果のあった事項**【学長主導による新しい横断共創大学院】**

本学は、学長のリーダーシップの下、分野や部局を超え新分野開拓と融合研究を展開すべく大学院改革を進め、大学院の3学府（医学薬学府、融合理工学府、人文公共学府）を創設してきた。本プログラムの採択時にコーディネーターだった中山が令和3年に学長に就任し、本プログラムの理念や教育体制等を大学全体へ敷衍させ、全学レベルで大学院改革を加速した。中山学長の急逝後、プログラム担当者の横手が令和6年に学長になり、全学横断ダブルメジャー大学院の強化とともに、社会と共創する研究・教育を強力に推進している。具体的には、博士課程11専攻の全てで、分野や部局の壁、文系と理系の枠を越えた「文系・理系統融合ローテーション演習」や、異なる2分野の教員が大学院生を指導する「複数指導教員制」を有する「全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト」を実施するとともに、令和7年に新設した「アントレプレナーシップセンター」では、全学を対象に文理横断の新しい体制で大学院生へ社会実装力を付与している。

令和4年に設置した「未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点」では、新規ワクチンの研究・開発を多数の企業との連携で推進しており、本プログラムの中軸である先端医学薬学専攻に、新たにワクチン学コースと感染症学コースを開設し、新興・再興感染症に対応できる人材養成に取り組んでいる。

本学は令和5年に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択され、重点領域として強化している免疫学とワクチン研究は、本プログラムの担当者と学生の多くが関与する主要分野であり、大学全体の牽引役となっている。

さらに、本学の教育と研究の中核であり学長が基幹長を務める「国際未来教育基幹」と「国際高等研究基幹」が両輪となり、本プログラムの特長である学生の主体的な取組を全学に拡大し、産官学のリーダーを招聘する「イノベーション創発セミナー」や、学生自ら国内外の研修先を探して実施する「自主発展型研修」等への経済的支援を全学レベルで展開している。大学院生を若手研究者と位置付け、修士課程の学生を支援する「若手研究者スタート支援」も実施し、修士から博士まで一貫した大学院改革を推進している。

【プログラム生主導の多様な活躍】

プログラム生が主導する活動は多岐にわたり、学生自ら企画し協働で作成したビジネスプランの発表などを全て英語で行う「iMeC-WISE リトリート」等を、毎年、実施しており、企業のプログラム担当者から起業に向け実践的な助言を受けている。さらに、プログラム生には、学生サポートセンター主催の第19回学生ビジネスプランコンテストで優秀賞（令和4年）、千葉銀行と横浜銀行が主催するちばぎん・はまぎん学生ビジコンで大賞（令和4年）と準大賞（令和7年）、本学の教員と競う第1回なのはなコンペ（アドバンスコース）で最優秀賞（令和4年）、「健康医療AIデザインプログラム（MAP）」ハッカソンでAI賞（令和6年）など多数の受賞歴がある。また、異分野の2名のプログラム生が共同し、データサイエンスを用いて様々な課題を解決することを目的とした株式会社を起業し、福島県矢吹町が実施する「スポーツ×デジタル振興プロジェクト」にも貢献している。

検証可能かつ明確な目標では、自主企画で海外渡航する学生数は目標値の2倍の30名（令和6年度）、英文国際誌での発表数も目標値の1.9倍の62回（令和6年度）と大幅に上回り、国際学会での発表数やTOP10%相当論文数、特許出願数などの全項目で目標を達成している。

連携先機関の他に、東京大学や生理学研究所等の国内機関に加え、フランスの構造生物学研究所（CBS-CNRS）やタイのチュラポーン大学院等の海外機関、アステラス製薬や小野薬品工業等の企業と共同研究を開始した学生もおり、国内外と産官学の幅広いネットワークを構築している。

②計画通り進んでいる事項**【充実した教育体制で優秀な博士を輩出】**

本プログラムのクラスター制 CHIBA 教育システムの下、本学の多様な分野と部局の教員44名に加え、15連携先機関の理化学研究所（理研）やカリフォルニア大学サンディエゴ校（UC San Diego）、企業等の計69名のプログラム担当者が、緊密な連携の下で国や機関等を超えて、きめ細かに学生を指導している。これまでに、優れた成果を挙げ在学期間を短縮した5名を含め、当初計画の10名を超え、既に15名の修了生を輩出している。

修了生の全員が修了直後に職に就いている（起業家1名、製薬企業2名、特許事務所1名、英国グラスゴー大学等の海外機関ポスドク3名、千葉大学教員6名、岡山大学教員1名、量子科学技術研究開発機構（量研）研究員1名）。

また、本学独自のグローバル教育体制 CITIP（Chiba Innovative Therapeutics International Program）は、当初の21から37海外研究機関50名の客員教員へ増員し、産官学横断教育体制 CITICO（Chiba Innovative Therapeutics Industry Consortium）も国内外企業26社から32社と7政府関連機関の47名の客員教員へ拡大し、学生の博士論文研究指導と学位審査、キャリア支援等を充実させている。

令和5年度から博士課程の先端医学薬学専攻の入学定員を108名から148名へ大幅に増員した中、定員充足率は100%以上を維持している。

プログラムに参加する社会人大学院生の総数は目標値の1.7倍の24名（令和6年度）、プログラムを修了した社会人大学院生も目標値の1名に対し4名（令和6年度）と大幅に上回っている。

【学生へのきめ細かな教育と支援】

革新医療創生演習を終了したプログラム生一人ひとりに、分野が異なる3人の指導教授がつく「トリプル指導教授制」を実施し、多面的に学生を指導している。プログラム生は毎年度末に、俯瞰力や独創力、高度な専門性、レジリエンス等での成長度や、学修とキャリア形成上の課題等をプログラム独自の「学生ポートフォリオ」に記入し提出しており、学生が自身の成長を的確に把握すると同時に、指導教授がきめ細かに指導する上で有効に機能している。学生ポートフォリオの分析から、全学生の年毎の成長が明確に示されている。

「革新医療創生国際（ダブルディグリー）コース」では、連携先機関のシャリテ医科大学で令和7年秋から履修を開始する学生に加え、準備中の学生がいる。コロナ禍のために本コースの履修が叶わなかった学生を対象に、令和6年に「ダブルメジャー国際コース」を開設し、長期の海外トレーニングの機会を提供しており、米国パデュー大学への留学を含め、複数名が参加している。

プログラム生が学修と研究に専念できるように、年240万円の教育研究支援経費、もしくはエフォートに応じて博士課程学生は年240万円、修士課程学生は年138万円を上限とするリサーチアシスタントを支給しており、申請した学生全員（令和6年度は54名）が支援を受けている。さらに、野心的な試みを評価する独自の自主研究システムも実施し、申請学生の全員に特別研究費（令和6年度は56名に年に5～60万円）を支給している。

③改善が必要な事項

【効率的な事務システム】

日本語と英語の両方で履修や支援等の情報を周知するとともに、プログラム生の俯瞰力等に関する成長度の把握や論文発表等の業績収集、修了後も含めてのキャリアパス支援を実施している。今後、修了生の増加に伴い、事務処理の増大が予想される。既に学生ポートフォリオ等をフォーマット化し、在学生のデータ処理の効率化を進めているが、留学を含め多様なセクターでの活躍が期待される修了生の膨大なデータに関し、個人情報保護に留意しつつ収集・分析システムの効率化を進めている。

【グッドプラクティスの他大学への敷衍】

令和7年度の大学院教育改革フォーラムは本学が主催大学であり、人文系唯一の本学の卓越大学院「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」と共に、これまでのリーディング大学院の取組も含め、全国の大学院関係者とグッドプラクティス情報等を共有すべく準備を進めている。

④プログラムとしての今後の見通し

プログラムの科目は全て正規科目となっており、学生の指導・支援やPDCAサイクル、外部評価等の全てが大学院体制に組み込まれており、今後も継続的に改善しつつ実施する。

プログラム関連部局の外部資金は大幅に増額しており、間接経費等の収益により、プログラムを自走させる資金力を有する。さらに、プログラム生の半数以上が参加する「全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト」は、科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援を受け、年に205名以上の博士課程学生の生活費と研究を支援できる体制となっており、学生支援体制も充実している。